

大地震が発生したらまず自分の身を守る

2015年1月18日発行

揺れが収まったら真っ先に火の始末で火災防止を

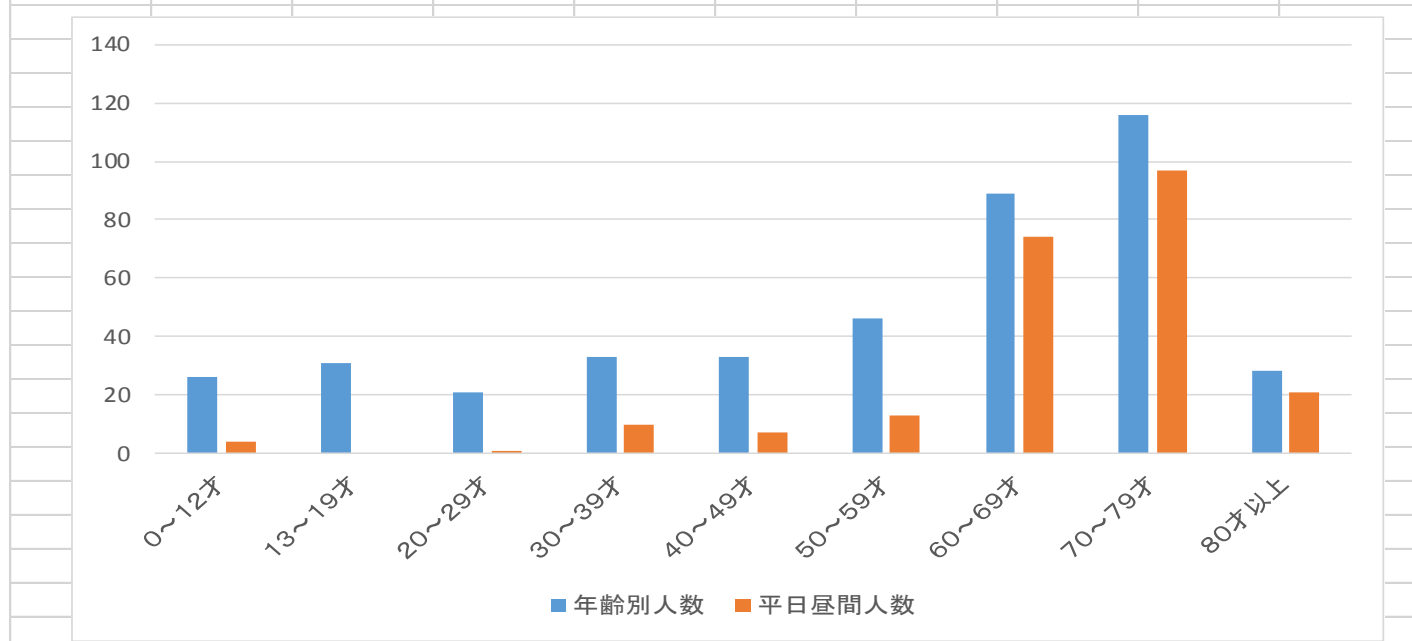
柳谷戸支隊 広報・情報班

防災隊の活動も3年目に入ります、今年も皆さま方のご協力よろしくお願いたします。
今回はアンケート調査の結果より纏めた地域内在住の人員構成、及び通電火災について記します。

1. 柳谷戸支隊 年齢別人員構成、及び平日、昼間の在宅想定人数は下表の通りです。

- 1) アンケート回答世帯：174、家族構成回答世帯：168、人数：423名、@2.52名/世帯。
高齢者を中心にした構成になっています。非常時には全員協力して救助その他の活動が必要。
- 2) 平日、昼間在宅想定人数：227名、内、60才以上：192名（84.6%）。
- 3) 調査時点の総隊員世帯数（自治会員）：297、推定総人数：約750名（上記@係数使用）。
- 4) その他、非自治会員：約160世帯（約400名）位の方が居住と推定されます。

年齢	0～12才	13～19才	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	70～79才	80才以上
年齢別人数	26	31	21	33	33	46	89	116	28
平日昼間人数	4	0	1	10	7	13	74	97	21



2. **感震ブレーカー**設置して**通電火災**の予防に努めましょう！（アンケートでは15%の設置率）

通電火災とは、大震災などに伴う停電が復旧した後に発生する火災で、破損した電化製品や電気配線が通電時に発火・発熱することが原因で火災が発生することです。地震が起きた直後よりも、停電が復旧した後発生する通電火災がより怖い（避難などで初期消火が難しい）。実際に阪神淡路大震災で特定された出火原因の約6割がこの通電火災であったと云われます。通電火災を防ぐ最も有効な方法はブレーカーを切る事です。ただ、揺れの直後は身の確認、混乱、などで冷静な判断をとる事も難しい。

通電火災防止対策として、ある一定の震度以上の地震に対して自動的にブレーカーを遮断する「感震ブレーカー」の設置をお勧めします。機能も配電盤の工事等に数万円を必要とするものから、地震の揺れで錘を落下させてブレーカーを切る簡単な物などあります（自宅で簡単に取付け可能、1千円台程度）。

配電盤周辺の状況などを見て選択して下さい。ユニディーなどホームセンターなどにあります。以上